

地域包括ケアシステムにおける「地域の保健室」の役割

聲 高 英 代・合 田 加代子

Roles of Community Healthcare Rooms in the Community-based Integrated Care System

KOETAKA Hanayo and GOUDA Kayoko

Abstract :

Objective : To clarify the roles of “community healthcare room” by analyzing the descriptive contents of previous studies, and discuss the significance of such rooms in Japan’s community-based integrated care system.

Methods : In June 2021, web searches were conducted using Ichushi Web and the keyword “healthcare room”. Twenty-nine original articles on community healthcare rooms were adopted to extract descriptions of the roles of these rooms, and qualitative and descriptive analysis was performed.

Results : A total of 32 codes were identified. The roles of community healthcare rooms were represented by the following 10 sub-categories and 4 categories : [providing a place to stay with a sense of security in a familiar environment], [providing various specialized consultations], [promoting residents’ health], and [expanding resident networks to advance community development].

Conclusion : The results clarified that community healthcare rooms are expected to provide a place for residents to stay with a sense of security in a familiar environment, while serving as a place that provides various specialized consultations and promotes residents’ health, and expand resident networks to advance community development, supporting the importance and significance of community healthcare rooms in Japan’s community-based integrated care system.

Key Words : Community healthcare room, Community-based integrated care system, Community development, health promotion

抄録 :

目的 : 先行研究の記述内容を分析することを通して「地域の保健室」の役割を明らかにし、その上で地域包括ケアシステムにおける「地域の保健室」の意義を考察する。

方法 : 2021 年 6 月に医学中央雑誌 Web を用いて検索ワードを“保健室”として検索し、「地域の保健室」の役割について述べられた原著論文 29 件を分析対象とした。文献より役割の記述を抽出し質的記述的分析を行った。

結果 : 32 コードが抽出された。役割として【身近で安心できる居場所を提供する】、【専門職が多様な相談を受ける】、【主体的な健康づくりを促進する】、【住民のつながりを地域づくりに発展させる】という 10 のサブカテゴリーと 4 つのカテゴリーが得られた。

結論 : 「地域の保健室」には、住民の身近に安心できる居場所を提供するとともに専門職が多様な相談を受けて主体的な健康づくりを促進する場となり、さらには住民同士のつながりを地域づくりに発

展させる役割があることが明らかになり、地域包括ケアシステムにおいて「地域の保健室」が重要な意義を有することが示唆された。

キーワード：地域の保健室，地域包括ケアシステム，地域づくり，健康づくり

I. 緒 言

我が国では今後の全国的な人口減少が推計されているが、都道府県ごとの人口の動向は異なり、地域ごとに住民ニーズとその対応が多様化していくと見込まれており¹⁾、各地域の地域包括ケアシステムによって住民ニーズに対応していくことが求められている。近年、地域の中で住民の健康を守る「地域の保健室」が全国で開設され、地域の実情に合わせた活動が行われている。「地域の保健室」は、2000年に日本看護協会が地域における看護提供システムモデル事業として展開し、大学や地域の看護協会が主体となり全国で開設されている「まちの保健室」²⁾³⁾と2011年に白十字訪問看護ステーションが在宅医療連携拠点事業を受託して開設し、その意義に共感する様々な機関・職種により全国に広がっている「暮らしの保健室」⁴⁾が代表的である。いずれも地域の身近な場所で住民の健康や生活を守ることを目的に地域に根差した活動がされているが、「地域の保健室」は地域包括ケアシステムの構図の中で明確に位置付けられていない。一方で「地域の保健室」の活動報告や評価に関する研究は多数報告されており、「地域の保健室」が各地域の住民ニーズに応じた活動を行っていることや地域包括ケアの担い手のひとつになっていることがうかがえる⁵⁻⁷⁾。また、活動評価や利用者等への調査から「地域の保健室」の役割についての報告がみられ⁸⁻¹¹⁾、住民ニーズに応じる地域の新しい場としての役割を持つことがうかがえる。「地域の保健室」が地域包括ケアシステムの一部として多機関と連携して協働することができれば、地域住民のニーズに対応する場のひとつとして機能することができると考える。「地域の保健室」の役割を明らかにし、地域包括ケアシステムにおける位置付けや多機関との協働の在り方を検討していくことが必要である。

本研究では、先行研究の記述内容を分析することを通して「地域の保健室」の役割を明らかにし、その上で地域包括ケアシステムに位置付けられる「地域の保健室」の意義を考察する。

II. 研究方法

1. 用語の定義

本研究における「地域の保健室」は、「地域住民を対象に健康を守る場として活動している保健室」と定義する。地域で展開している「地域の保健室」の名称は「まちの保健室」や「暮らしの保健室」等様々であるが定義に当てはまるすべての場を総称して「地域の保健室」とする。

2. 研究方法

研究デザインは文献研究である。

1) 文献検索方法

2021年6月に医学中央雑誌 Web を用いて検索を行った。検索ワードを「保健室」として検索し、学校保健や産業保健等に関する検索ワードをもつ文献を除外した。さらに、文献タイトルおよび抄録、本文を確認して「地域の保健室」に関する文献ではない文献を除外したところ262件の論文が抽出された。抽出された論文

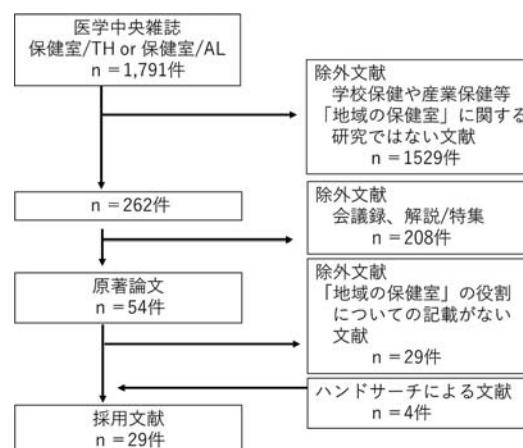


図1 文献検索フロー

表 1 分析対象文献

タイトル・著者・発行年	対象	方法	文献番号
遠隔看護システムにおけるバイタル情報の有用性「まちの保健室」での活用に向けて（東ますみ，2002）	一般住民 3 名	測定された指尖容積脈波のカオス解析	12)
兵庫県方式の「まちの保健室」における看護ボランティア活動の評価と今後の課題 明石地区の活動を通してボランティアの役割を考える（西村敬子，2003）	来所した住民 75 名 ボランティア看護師 18 名	住民の個人票の分析 住民とボランティアへの面接調査	13)
JA・商工会・行政との共同で進める「まちの保健室」（南雲寿子，2004）	活動内容	活動の集計・分析	14)
「まちの保健室」における骨密度測定実施の試み（吉田明子，2004）	利用者の 240 名	踵骨骨密度計測定と質問紙調査	15)
「まちの保健室」における地域住民のニーズと活動評価（東ますみ，2004）	阪神・淡路大震災後の災害復興公営住宅の世帯主 171 名	自治会担当者からの配布，郵送回収による質問紙調査	16)
地域住民が自己の健康に関心を向けるプロセスに関する研究 兵庫県方式「まちの保健室」の現職看護ボランティアとの関わりを通して（奥野信行，2004）	来所者 3 名	半構成的面接調査	8)
「まちの保健室」に来談した中高年の睡眠実態の分析（大島理恵子，2004）	来所者 23 名	アクティウォッチによる活動量測定，来所時の配布・回収による質問紙調査	17)
「まちの保健室」における睡眠相談活動 女性来談者の睡眠の実態を通して（堀田佐知子，2004）	来談者のうち協力の得られた 40 名	質問紙調査，1 週間の睡眠日誌および主観的睡眠評価用紙，アクティウォッチによる睡眠解析	18)
「まちの保健室」における看護ニーズ（清田敏恵，2004）	来所者 153 名	来所時の配布・回収による質問紙調査	19)
地域住民を支援するボランティア看護師による「まちの保健室」（神崎初美，2006）	定期的来所者 9 名	半構成的面接調査	20)
看護師による『こころの健康相談』の来談者のニーズおよび効果の検討（近澤範子，2007）	3 回以上継続して相談を受けている来談者 2 名	半構成的面接調査	21)
「まちの保健室」に対する地域住民の認識と利用状況（大竹まり子，2007）	一般高齢者 800 世帯	市の保健委員による配布と回収による質問紙調査	22)
「まちの保健室」を継続利用する精神科通院者への支援（古謝安子，2007）	継続利用者 2 名	半構成的面接調査	23)
看護師による『こころの健康相談』実践モデルの検討（近澤範子，2008）	地域の関連職種 10 名	半構造化面接調査	9)
兵庫県全域「まちの保健室」を利用している地域住民の健康状態と利用ニーズ（神崎初美，2009）	利用者 405 名	郵送による質問紙調査	24)
地域住民の認知症に対する意識と相談ニーズに関する調査「まちの保健室」の相談場所としての利用可能性（松岡千代，2009）	地域住民 858 人	郵送による質問紙調査	25)
園田キャンパス「まちの保健室」の参加者の身体状況と健康意識の実態 兵庫県健康増進プログラムの実施を通して（呉小玉，2010）	利用者 46 名	来所時の回答・回収による質問紙調査	26)
神戸市看護大学まちの保健室『こころと身体の看護相談』の活動実績とその評価（三浦藍，2012）	①利用者 20 名と調査票を記入した看護師 5 名 ②利用者 16 名	①調査票調査 ②来所時の配布・回収による質問紙調査	27)
神戸市看護大学まちの保健室の活動評価 利用者のアンケート調査より（池田清子，2012）	利用者 232 人	来所時の配布・回収または郵送回収による質問紙調査	28)
動脈硬化症の予防を目的としたフットケアを用いた看護相談の可能性の検討「まちの保健室」における看護師による生活習慣病と足の相談（片岡千明，2015）	①利用者 32 名 ②①のうち 6 名	①属性等の聞き取り調査，身体計測，足の観察 ②看護相談の録音データ分析	29)
「まちの保健室」参加住民の健康意識 拠点型における健康意識調査と全国調査の比較を通して（伊藤順子，2016）	利用者 104 人	来所時の配布・回収による質問紙調査	30)
「出前・イベント型まちの保健室」に参加する住民の意識と健康行動 住民の意識や健康行動を活用したまちの保健室とするために（稲田千明，2017）	参加者 493 名	来所時の配布・回収による質問紙調査	31)
「高齢者」と「まちの保健室」に関する文献レビュー 超高齢社会における「まちの保健室」の役割・効果（永見純子，2018）	文献 22 件	「まちの保健室」の役割・効果の分析	32)
2016 年度の「出前・イベント型まちの保健室」に参加された住民の健康状態と意識に関する調査（稲田千明，2019）	利用者 725 名	来所時の配布・回収による質問紙調査	33)
「まちの保健室」の活動評価 住民の健康づくり及び学生への教育的効果（安藤智子，2019）	①参加者 182 名 ②学生ボランティア 11 名と主宰した教員 1 名	①相談記録，計測データ，来所時の配布・回収による質問紙調査 ②活動場所での配布・回収による質問紙調査	34)
T 自治公民館における「まちの保健室」実践報告（田中美菜江，2020）	①参加者 23 名 ②①のうちの 9 名	①来所時の配布・回収による質問紙調査 ②健康チェックデータ	35)
地域の保健室に関する文献的検討（鈴木達也，2020）	文献 58 件	まちの保健室と暮らしの保健室の特徴の分析	36)
高齢者が見出す「地域の保健室」の価値「地域の保健室」を継続して利用している高齢者へのインタビューより（聲高英代，2021）	利用者 10 名	フォーカスグループインタビュー	11)
本学看護学部「まちの保健室」に参加する地域住民の健康状態と健康行動（松井菜摘，2021）	参加者 218 名	来所時の配布・回収による質問紙調査	37)

から原著論文で「地域の保健室」の役割について記載されている文献を抽出し、ハンドサーチによる文献4件を追加し、29件を分析対象とした(図1)

2) 分析方法

文献に記載されている「地域の保健室」の役割に関する記述を抽出してコード化した。意味が共通するコードをサブカテゴリーに分類し、さらに共通性をもつサブカテゴリーをまとめ、意味を明確に表現できるカテゴリー名をつけ、役割を分類した。サブカテゴリー化およびカテゴリー化に際してはコードや文献の内容を確認し分類を再考することを複数回繰り返した。一連の分析は公衆衛生看護学および質的研究の経験豊かな共同研究者1名とともにを行った。

Ⅲ. 研究結果

対象文献の概要を表1に示す。研究内容は、活動内容の分析¹⁴⁾や利用者を対象とした調査^{8, 11, 13, 15, 17-21, 23-24, 26-31, 33-35, 37)}を用いた活動評価を目的とした研究が多く、次いで一般住民を対象としたニーズ調査^{12, 16, 22, 25)}が多かった。その他にはボランティア看護師や学生などのスタッフを対象として人材育成を目的とした研究^{13, 34)}や地域の専門職を対象として支援技術向上を目的とした研究⁹⁾、文献研究^{32, 36)}がみられた。文献研究では高齢者における「まちの保健室」の役割・機能・効果の分析³²⁾と「まちの保健室」と「暮らしの保健室」の特徴の分析³⁶⁾が行われていた。

対象文献より「地域の保健室」の役割について

表2 「地域の保健室」の役割

カテゴリー (4)	サブカテゴリー (10)	コード (32)	文献番号
身近で安心できる居場所を提供する	身近で気軽に通える場を提供する	気軽に立ち寄ることができる場	8, 17, 18, 19, 31, 32, 36
		住民にとって身近な存在として寄り添う	8, 14, 26, 36
		行きやすい環境にある場	11
	安心な居場所を提供する	安心して癒しを得ることができる場	9, 23, 24
		馴染みやすい場	9, 11
		居場所としての場	23, 30
		健康問題を持った人が安心して利用する場	22, 37
専門職が多様な相談を受ける	住民と専門職をつなげる	住民を専門家とつなぐ	12, 16
		ライフサポーターとしての機能を果たす	16, 24, 26
		多職種が連携して支援する	14, 36
	多様な相談に対応する	予防の相談ができる場	29, 36
		生活面の相談ができる場	36
		医療や看護の相談ができる場	23, 25, 32, 36
		受診前の相談ができる場	9
		医療機関では満たされない相談ができる場	9
主体的な健康づくりを促進する	学び合う場を提供する	知識、情報を得る場	17, 24, 34, 36
		健康づくりを学ぶ場	34, 36
		看護学生の実習の場	36
	健康づくりのきっかけを提供する	自身の生活や健康を振り返る場	13, 15, 17, 23, 32, 33, 34
		健康意識を向上させる場	8, 30, 35
		健康行動を起こすきっかけを提供する	28, 32, 33, 35
住民のつながりを地域づくりに発展させる	人と人とのつながりをつくる	健康行動への意欲を引き出す	8, 30, 32
		健康行動の実践の場	20, 24, 32
		健康行動を促進する	14, 20, 21, 23, 27, 30, 32
	グループ活動を通して生きがいを創出する	住民同士をつなぐ場	13, 20, 23, 24, 30, 32
		引きこもりを予防する	8
		孤独感や不安を緩和する	8
	地域のつながりをつくる	社会的な活動ができる場	17
		仲間との活動にやりがいを見出すことができる場	11
		地域の親睦を深め、地域のつながりを強くする	35
		健康な地域をつくる	35
		看護大学による地域貢献の場	36

て述べられた 61 の記述を抽出した。記述内容から 32 コードが得られ、10 のサブカテゴリー、4 つのカテゴリーが生成された（表 2）。以下、カテゴリーは【】、サブカテゴリーは〈〉で表記し、カテゴリーごとに結果を述べる。

【身近で安心できる居場所を提供する】

このカテゴリーは〈身近で気軽に通える場を提供する〉、〈安心な居場所を提供する〉で構成される。「地域の保健室」は、住民にとって身近な場所にあり、気軽に通え、安心して利用することのできる場を提供するという役割を有していた。

【専門職が多様な相談を受ける】

このカテゴリーは〈住民と専門職をつなげる〉、〈多様な相談に対応する〉で構成される。「地域の保健室」には、様々な職種の専門職があり、予防を含む医療や介護等生活面のあらゆる相談ができる場となっていた。専門職が住民の多様な相談を受ける役割をもつことがわかった。

【主体的な健康づくりを促進する】

このカテゴリーは〈学び合う場を提供する〉、〈健康づくりのきっかけを提供する〉、〈主体的な健康づくりを支援する〉で構成される。住民が専門職から健康増進のための知識や情報を得るだけでなく、看護学生や従事する専門職が住民から学び、互いに学び合う場となっていた。また、住民は知識や情報を得た上で専門職と話をすることで自身の健康や生活を振り返り、健康意識を高め、健康行動を起こすきっかけを得ていた。そして、実際に健康行動を起こしていくための支援を行っていた。「地域の保健室」は学びと自身の振り返りを通して健康行動へのきっかけを作り、住民の健康づくりを促す役割を有していた。

【住民のつながりを地域づくりに発展させる】

このカテゴリーは〈人と人とのつながりをつくる〉、〈グループ活動を通して生きがいを創出する〉、〈地域のつながりをつくる〉で構成される。「地域の保健室」は多くの住民が集い、住民同士が出会い、つながる場となっていた。また、住民同士が協力し、「地域の保健室」のイベントを企画、運営するなど社会的活動を行うことができる場になり、住民のやりがいや生き

がいを創出していた。さらには「地域の保健室」内での活動を越えた地域でのつながりが作られていき、住民による地域づくりを発展させる場となっていることがわかった。

IV. 考 察

「地域の保健室」には【身近で安心できる居場所を提供する】、【専門職が多様な相談を受ける】、【主体的な健康づくりを促進する】、【住民のつながりを地域づくりに発展させる】という 4 つの役割があることが明らかになった。これらの役割から地域包括ケアシステムにおける「地域の保健室」の意義を考察する。

1. 住民全体を対象とする通いの場

【身近で安心できる居場所を提供する】役割はすべての「地域の保健室」の基盤となる役割である。住民が気軽に足を運べ、居心地よく利用できる場であることが「地域の保健室」の前提となっている。対象文献で述べられているいずれの保健室も開催または開設場所に留意し、生活の一部として容易に立ち寄れる場所を使用している。さらに、癒しの空間を工夫することで安心できる居心地の良さを提供している。特に常設型および頻度の高い定期開催の場合では、住民にとって定期的な外出の機会や日々の居場所となっている。介護保険などの公的サービスで利用する居場所とは異なり、自由に足を運べる居場所であり、子どもから高齢者、疾患や障害の有無にかかわらず住民全体を対象とした居場所となり得る。国は介護予防・健康づくりの推進として地域包括ケアシステムにおける住民全体の通いの場の充実を推進しており、市町村が中心となって、通いの場を拡充させ、人と人とのつながりを通じて参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりに取り組んでいる¹⁾。「地域の保健室」は地域包括ケアシステムにおける住民全体を対象とする通いの場となり、人と人とのつながりをつくる場としての意義をもつと考えられる。

2. 他の機関へつなぐ住民全体の窓口

【専門職が多様な相談を受ける】役割は「地域の保健室」が開設に至った大きな目的であ

り^{2,4)}、看護職が住民に身近な相談の場が必要であると感じたことから「地域の保健室」の活動が始まっている。そのため、対象文献においてもすべての「地域の保健室」で医療や介護、福祉等の相談や専門職による保健指導が行われていた。さらに、相談対象には自覚症状のない住民や受診までは考えていない住民、問題に気づいていない住民が含まれており、明確な相談内容をもった住民が訪れる医療機関や地域包括支援センターではつながりにくい住民とつながる役割を担っていた。「地域の保健室」で問題が明確になることで、住民は早期に適切な機関につながるができる。このことから、現状の地域包括ケアシステムで示される医療や介護の機関につながる前の住民全体を対象とした気軽な窓口としての意義があると考えられる。

3. 住民同士で健康づくりに取り組む場

【専門職が多様な相談を受ける】役割は【主体的な健康づくりを促進する】という役割につながる。住民は、身近で安心な居場所において何度でも専門職に相談ができ、個人にあった支援を受けることができる。そのため、自身を振り返ることや健康行動を起こすきっかけになりやすいと考える。さらに、身近で安心できる居場所であることから多くの住民が集まっているため、ともに健康づくりに取り組める仲間ができやすく、健康行動を継続しやすい環境となっていると考えられる。「地域の保健室」は住民ひとりひとりが自由に訪れることで、住民同士のつながりを作り、仲間として健康づくりができる場になっている。また、ともに健康づくりに励んだことにより仲間となり、つながりを深めていくことも考えられる。健康づくりを促進する役割と住民をつなげる役割が相互に作用しているといえる。国が推進する通いの場においても人と人とのつながりを通じて健康づくりを推進していることから「地域の保健室」の役割と通じている。「地域の保健室」は地域包括ケアシステムの介護予防において、住民同士で健康づくりに取り組む場としての意義があると考えられる。

4. 住民による地域づくりの場

地域包括ケアシステムは地域づくりの仕組み

であり、【住民のつながりを地域づくりに発展させる】役割は特に重要であると考ええる。「地域の保健室」での住民同士のつながりが「地域の保健室」の企画や運営などの自主的な活動につながっているという報告がみられた^{11, 38)}。個人の健康づくりを越えて、仲間の健康づくり、さらには地域住民全体の健康づくりへの活動に発展している。活動にやりがいを感じることでさらなる活動意欲の向上、健康行動につながっていると考えられる。また、活動は「地域の保健室」を越えて地域での活動へと発展していくことで住民自らによる地域づくりにつながっていく。国は地域包括ケアシステムの構築において高齢者の社会参加を推進し、高齢者の生きがいや介護予防につなげる取り組みを重視している³⁹⁾。「地域の保健室」は、住民同士のつながりを住民の社会参加に発展させ、地域づくりにつなぐ意義があると考えられる。しかし、住民同士または「地域の保健室」の中での活動を地域へ発展させることは「地域の保健室」だけでは困難である。地域全体を把握し地域包括ケアシステムの構築を担う行政の力が重要となる。行政の看護専門職である保健師が地域包括ケアシステムの一社会資源として管轄地域の「地域の保健室」とその活動を把握し、住民と運営主体、他の機関と協働して地域づくりを推進していくことにより、「地域の保健室」の役割は発揮されていくと考える。行政と連携して開設、運営されている「地域の保健室」の報告は複数みられる^{7, 40, 41)}。これらの報告では、開催に至る協働の経緯や共同運営、個別支援の連携事例の報告は見られるが住民を主体とした地域づくりへの関与がうかがえる報告はみられない。「地域の保健室」と住民、行政が協働した地域づくりの実態を把握することが今後の課題である。

「地域の保健室」が有する役割は、国が推進する通いの場、地域の機関と住民をつなぐ窓口、健康づくりの場、そして住民同士の地域づくりの場となる意義をもたらすことが示唆された。「地域の保健室」は、地域包括ケアシステムにおいて、住民に近い場で多機関と協働して機能する新たな場として位置付けることができると考える。

本研究は先行文献から得られた一部の「地域

の保健室」の実態から分析を行ったにとどまる。今後、地域包括ケアシステムにおける位置付けを明らかにするため、本研究で明らかになった役割を基本とし、実際の活動から「地域の保健室」が地域において果たしている役割とその効果を明らかにしていく必要がある。

V. 結 語

近年、「地域の保健室」の開設が全国的に進んでいることから、「地域の保健室」の役割を明らかにし、地域包括ケアシステムにおける意義を考察することを目的として文献検討を行った結果、「地域の保健室」の役割は、【身近で安心できる居場所を提供する】、【専門職が多様な相談を受ける】、【主体的な健康づくりを促進する】、【住民のつながりを地域づくりに発展させる】の4つに集約され、「地域の保健室」が地域包括ケアシステムにおいて重要な意義を有することが示唆された。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 20K10978 の助成を受けた研究の一部です。

利益相反

本研究において開示すべき利益相反状態はない。

文 献

- 1) 厚生労働省：令和2年版厚生労働白書－令和時代の社会保障と働き方を考える－。 <https://www.mhlw.go.jp/content/000735866.pdf> (検索日 2020 年 8 月 6 日)
- 2) 南裕子：保健医療福祉制度改革下における看護の役割・機能（解説）。看護 51(13), 116-120. 1999.
- 3) 山崎摩耶：看護からみた日本の医療 看護職たちのチャレンジ（解説）。看護 53(6), 20. 2001.
- 4) 秋山正子：「暮らしの保健室」で開花した訪問看護の相談機能。訪問看護と介護 19(1), 47-52. 2014.
- 5) 小野まゆみ：あきた森の保健室（秋田県由利本荘市）まちの診療所の中にある「ほっとステーション」あきた森の保健室。コミュニティケア 21(7), 45-51. 2019.
- 6) 杉本みぎわ：「人を迎え入れる温かさ」を持つ家で「暮らしの保健室」に取り組む。コミュニティケア 21(7), 86-92. 2019.
- 7) 三輪恭子：よどまち保健室&よどまちカフェーあらゆる「しかけ」で地域の住民・専門職を紡ぐ。訪問看護と介護 22(4), 276-280. 2017.
- 8) 奥野信行, 大島理恵子, 堀田佐知子, 他：地域住民が自己の健康に関心を向けるプロセスに関する研究

- 兵庫県方式「まちの保健室」の現職看護ボランティアとの関わりを通して。兵庫県立看護大学附置研究所推進センター研究報告集 2, 17-24. 2004.
- 9) 近範子, 玉木敦子, 川田美和, 他：看護師による『こころの健康相談』実践モデルの検討。兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 15, 119-133. 2008.
- 10) 樋貝繁香, 下田裕子, 浅見美千江, 他：白山ろくの地域住民の生活に即した「やまの保健室」活動の検討（第1報）。金城大学紀要 17, 171-178. 2017.
- 11) 聲高英代, 合田加代子：高齢者が見出す「地域の保健室」の価値「地域の保健室」を継続して利用している高齢者へのインタビューより。甲南女子大学研究紀要 II 15, 11-18. 2021.
- 12) 東ますみ, 川口孝泰, 南裕子：遠隔看護システムにおけるバイタル情報の有用性「まちの保健室」での活用に向けて 兵庫県立看護大学紀要 9, 103-111. 2002.
- 13) 西村敬子, 浅田弘子, 赤和子, 他：兵庫県方式の「まちの保健室」における看護ボランティア活動の評価と今後の課題 明石地区の活動を通してボランティアの役割・機能を考える。日本看護学会論文集：看護管理 33, 245-247. 2003.
- 14) 南雲寿子, 五十嵐啓子, 細貝朋子, 他：JA・商工会・行政との共同で進める「まちの保健室」。新潟県厚生連医誌 13(1), 23-24. 2004.
- 15) 吉田明子, 鶴山治, 東ますみ, 大島理恵子他：「まちの保健室」における骨密度測定実施の試み。兵庫県立看護大学紀要 11, 45-55. 2004.
- 16) 東ますみ, 吉田明子, 近田敬子：「まちの保健室」における地域住民のニーズと活動評価。兵庫県立看護大学附置研究所推進センター研究報告集 2, 1-7. 2004.
- 17) 大島理恵子, 宮島朝子, 堀田佐知子, 他：「まちの保健室」に来談した中高年の睡眠実態の分析。兵庫県立看護大学附置研究所推進センター研究報告集 2, 25-32. 2004.
- 18) 堀田佐知子, 宮島朝子, 大島理恵子, 他：「まちの保健室」における睡眠相談活動 女性来談者の睡眠の実態を通して。兵庫県立看護大学附置研究所推進センター研究報告集 2, 33-39. 2004.
- 19) 清田敏恵, 松尾恵子, 松井通子, 他：「まちの保健室」における看護ニーズ。日本看護学会論文集：地域看護 34, 3-5. 2004.
- 20) 神崎初美, 安達和美, 南裕子：地域住民を支援するボランティア看護師による「まちの保健室」。兵庫県立大学地域ケア開発研究所研究活動報告集 1, 43-49. 2006.
- 21) 近澤範子, 玉木敦子, 川田美和, 他：看護師による『こころの健康相談』の来談者のニーズおよび効果の検討。兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 14, 107-118. 2007.
- 22) 大竹まり子, 荒井幸子, 矢口裕子, 他：「まちの保健室」に対する地域住民の認識と利用状況。日本看護学会論文集：地域看護 37, 158-160. 2007.

- 23) 古謝安子, 比嘉文子, 山城昌子, 他:「まちの保健室」を継続利用する精神科通院者への支援. 日本看護学会論文集:看護総合 38, 282-284. 2007.
- 24) 神崎初美, 神原咲子:兵庫県全域「まちの保健室」を利用している地域住民の健康状態と利用ニーズ. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 16, 39-49. 2009.
- 25) 松岡千代, 安達和美:地域住民の認知症に対する意識と相談ニーズに関する調査「まちの保健室」の相談場所としての利用可能性. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 16, 69-83. 2009.
- 26) 呉小玉, 大野かおり, 鶴山治, 他:園田キャンパス「まちの保健室」の参加者の身体状況と健康意識の実態 兵庫県健康増進プログラムの実施を通して. 園田学園女子大学論文集 44, 121-132. 2010.
- 27) 三浦藍, 安藤幸子, 中島友美, 他:神戸市看護大学「まちの保健室」『こころと身体の看護相談』の活動実績とその評価. 神戸市看護大学紀要 16, 69-76. 2012.
- 28) 池田清子, 安藤悦子, 岩本里織, 他:神戸市看護大学「まちの保健室」の活動評価 利用者のアンケート調査より. 神戸市看護大学紀要 16, 11-20. 2012.
- 29) 片岡千明:動脈硬化症の予防を目的としたフットケアを用いた看護相談の可能性の検討「まちの保健室」における看護師による生活習慣病と足の相談. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 22, 69-80. 2015.
- 30) 伊藤順子, 菊原美緒, 岩澤磨紀, 鈴立恭子他:「まちの保健室」参加住民の健康意識 拠点型における健康意識調査と全国調査の比較を通して. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 73, 45-51. 2016.
- 31) 稲田千明, 荒川満枝:「出前・イベント型まちの保健室」に参加する住民の意識と健康行動 住民の意識や健康行動を活用したまちの保健室とするために. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 75, 29-34. 2017.
- 32) 永見純子, 伊藤順子, 土居裕美子:「高齢者」と「まちの保健室」に関する文献レビュー 超高齢社会における「まちの保健室」の役割・機能・効果. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 77, 1-12. 2018.
- 33) 稲田千明, 松本弘美, 荒川満枝:2016年度の「出前・イベント型まちの保健室」に参加された住民の健康状態と意識に関する調査. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 78, 9-14. 2019.
- 34) 安藤智子, 岩瀬靖子:「まちの保健室」の活動評価 住民の健康づくり及び学生への教育的効果. 千葉科学大学紀要 12, 207-217. 2019.
- 35) 田中美葉江, 稲田千明, 田中響:T自治公民館における「まちの保健室」実践報告. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 80, 45-50. 2020.
- 36) 鈴木達也, 寺裏寛之, 間辺利江, 他:地域の保健室に関する文献的検討. 自治医科大学紀要 42, 47-56. 2020.
- 37) 松井菜摘, 阪上由美, 新田紀枝, 他:本学看護学部「まちの保健室」に参加する地域住民の健康状態と健康行動. 武庫川女子大学看護学ジャーナル 6, 79-89. 2021.
- 38) 新井香奈子, 大島理恵子:『まちの保健室』が開催されていない地域住民の健康への意識・関心と『まちの保健室』に対するニーズ. 兵庫県立大学地域ケア開発研究所研究活動報告集 2, 97-105. 2007.
- 39) 厚生労働省:地域包括ケアシステム. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/ (検索日 2020年8月6日)
- 40) 藤井麻帆, 田中響, 美船智代, 他:「まちの保健室」の活動地域拡大に向けての方策 コミュニティ特性に応じた連携・協働. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 75, 35-43. 2017.
- 41) 赤井圭二:沼田町暮らしの安心センター(北海道雨竜郡沼田町)行政主導型の「保健室」は全世代の住民を支える沼田町暮らしの安心センター. コミュニティケア 21(7), 39-44. 2019.